

## 家庭あるいは地域社会に基づく読み書きプログラムの有効性に関するエビデンスは限られているが、いくつかの手法はアウトカムを向上させる



By Blue Plover [CC BY 3.0]

概して、親の訓練や子ども同士の個別指導への介入は有効ではないが、教育番組は頻繁に視聴することで読み書き能力を向上させるようである

### 本レビューの目的

このキャンベル・システマティック・レビューでは、発展途上国における子どもの読み書き能力の発達のための親・家族・地域社会への支援の有効性を評価している。本レビューでは、13の研究から得られた調査結果をまとめ、そのうち10はメタ解析に用いられた。

子どもの読み書き能力を向上させるための学校外の介入には幅広いモデルがある。これらのモデルの大半は、厳密な評価を受けてこなかった。親や友人への支援は読み書き能力の向上において大部分は効果がないが、一部の場所では機能してきた。教育番組は正の効果があった。

### 本レビューの研究対象

世界の子どもたちの大多数に対して、学業は期待されたほど普及していないし、21世紀に成功するために必要な基礎技能を提供してもいない。本レビューで調査するのは、発展途上国における子どもたちの読み書き能力のための、親・家族・地域社会への支援を増進させるための介入の有効性に関するエビデンスの有効性と調査結果である。

### レビューの対象となる研究

対象となる研究は2003年以降に公表された、3歳から12歳までの子どもの読み書き能力を向上させるという目的を持って家族、両親、地域社会への介入を伴う実験を行ったものである。研究の設計の条件は、比較群を用意し、読み書き能力に関するアウトカムを報告することである。

本レビューでは13の研究が対象となっており、教育番組、子どもが学校に通う準備を支援する方法を親が学ぶのを助ける介入、友人による指導の介入を扱っている。

### 本レビューにおける主要な調査結果

読み書きの学習プログラムに関するどのようなモデルが、家庭および地域社会で施行されたのか？

多くのモデルが、低・中所得国で広く活用されている。これらのモデルに含まれるのは、ジンバブエ、ケニア、インド、ベネズエラを含む多くの国における図書館（据え付けあるいは可動式）の提供、カンボジア、スリランカ、ザンビアのいった国における現地語での出版、宗教教育を通じた読み書きの教育を含む学校外での読み書き指導、ガーナやウガンダのような国における電子リーダーの配布、教育的なテレビやラジオ、地域社会の成員が子どもを教育することの支援である。



Ness Kerson/madNESS Photography for AusAID [CC BY-SA 4.0]

### 本レビューの最新度

本レビューの著者は2013年7月までに発表された研究を探した。このキャンベル・システマティック・レビューは2016年3月に発表された。

### キャンベル・コラボレーションとは

キャンベル・コラボレーションは、体系的なレビューを発表する、ボランティアによる非営利の国際研究組織である。我々は、社会科学と行動科学におけるプログラムに関するエビデンスを要約し、質を評価している、我々の目的は、人々がよりよい選択と政策決定を行うことを支援することである。

### このサマリーについて

このサマリーは、キャンベル・システマティック・レビュー2016年4号に掲載されたET Spier, PR Britto, T Pigott, E Roehlkapartain, M McCarthy, Y Kidron, M Song, P Scales, D Wagner, J Lane and J Gloverによる体系的なレビュー、「発展途上国における子どもの読み書き能力を向上させるための親・家族・地域社会への支援による介入」に基づき、Howard White (キャンベル・コラボレーション) により作成された (DOI: 10.4073/csr.2016.4)。Anne Mellbye (R-BUP) がこのサマリーを構想し、Tanya Kristiansen (キャンベル・コラボレーション) より編集、作成された。

低・中所得国の家庭および地域社会で施行された読み書きの学習プログラムに関するどのようなモデルに、その有効性に関する経験的エビデンスがあるのか？

世界中の政府やNGOによって活用されるモデルのほとんどの有効性に関する厳密なエビデンスはない。希望となるのは、教育的なテレビやラジオと、地域社会の成員が子どもを教育することの支援である。

子どもたちの読み書き能力のアウトカムを向上させる上でこれらのモデルはどのくらい有効なのか？

概して、親の訓練のための介入と子ども同士の教え合いの介入は効果的ではなかった。9個のうち8個の研究は、アウトカムが有意な効果を示さなかったことを報告している。しかし、調査結果にはかなりの不確定要素があるので、ある状況で有効となる手法もあるかもしれない。

教育番組は頻繁に、すなわち、1週間に3日から5日、数ヶ月にわたって視聴すれば読み書き能力を向上させるようである。

### 本レビューにおける調査結果から得られる示唆

我々の知識には深刻な格差がある。ある環境でうまく機能したプログラムは、上手くいくための文脈依存の要因を特定して理解できるように、別の場所で再現するべきである。政府やNGOによって用いられるモデルのほとんどにはエビデンスがなく、ラテンアメリカにおけるものは一つもなく、ただ一つの研究だけが7歳以上の子どもに対する効果に関するエビデンスを示している。